

【団体名】公益財団法人神奈川県社会復帰援護会

事業報告書

<p>事業名</p>	<p>当事者による三色パステルアート普及活動事業及びパラアートによる地域交流事業</p>
<p style="text-align: center;">【計画時の事業内容】</p> <p>■精神障がいを持った当事者によるパラアート＝三色パステル普及活動事業 三色パステルアートは[絵]とともに[脳]や[心]の分野を大事にして誕生したトセラピー 三色パステルアートは「赤」「青」「黄」の3本のソフトパステルだけを使用するアートセラピー(芸術療法)です。脳科学と心理学をベースに開発された独自の技法で、パステル画を描きます。三色パステルアートは、2012年精神科デイケアで組み込まれたカリキュラムからその活動をスタートさせました。右脳・五感・瞑想・ストレスケア・コミュニケーション・回想法など、日本で初めて本格的なアートセラピーを取り入れたパステルアートです。三色パステルアートは絵画教室ではないので芸術性の高い美しい作品を描くことより、自由な自己表現を楽しみながら描くことを重視しています。3色しか使わないのではじめてでも簡単。必要な材料も最小限です。いちばん手軽に、誰もが思わず自慢したくなるような絵ができることがその特徴です。使用する画材は初心者向けのもので、予算が少ない現場でも実施可能です。 そういったことから、昨年度は</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者（片麻痺の高齢者）のサークル ・発達障がい児放課後デイサービス ・地域活動支援センター ・就労移行支援事業所 ・川崎市男女共同参画センター（すくらむ21）の東日本大震災で被災され川崎に避難された方たちを対象のホットサロン ・近隣の皆様との地域交流会 ・「川崎市精神障害者地域生活推進連合会・地域交流会」等々、 <p>様々な人たちのご参加＝9カ所での開催、約100名のご参加を得ることができました。 場所も、性別も、年齢も選ばない三色パステルアートの持つ特性を発揮し、皆様に自分らしいスタイルで楽しんでいただくことが出来ました。 参加した人たちは間違いなく、その仕上りに驚き、十分な達成感を感じてくれたものと確信しています。 「児童発達支援事業所ドナルド」で参加してくれた小五の児童の発した「これ売れるかな」の一言が雄弁に</p>	<p style="text-align: center;">【実施結果(成果)】</p> <p>第一回目 9月7日(土) 14:00～16:00 地域生活支援センター「ニコパ」(川崎市高津区下作延4-3-12 上中村ビル1階)様で5名の参加で開催いたしました。参加人数はそれほどではなかったのですが、ニコパ様は日常的に絵画プログラムを取り入れていることもあり、参加者のレベルはかなり高いものがあるにもかかわらず、三色パステルという別の角度から見たものに興味津々でした。 終了後の感想会ではまたもう一度是非ともやりたいという声をいただきました。</p> <p>第二回目 10月19日(土) 14:00～16:00 地域生活支援センター「ニコパ」(川崎市高津区下作延4-3-12 上中村ビル1階)様で7名の参加。前回の参加者の大満足だったとの声を受け、9月7日に参加できなかった方々から「是非ともう一度開催してほしい」という要望を受けて、地域生活支援センター「ニコパ」様で14時より7名の参加で再度開催いたしました。前回に引き続き大好評で、この後、月一回ニコパ様のプログラムの一つとして定期開催が決定いたしましたことは、活動の内容の評価と共に、持続性という観点から特筆されるべきものいえます。</p> <p>第三回目 10月24日(木) 13:30～15:30下新城町内会館(神奈川県川崎市中原区下新城3丁目14-19)にて。「三色パステルで秋を描こう」と題したワークショップも期待に違わないものとなりました。 天候も良く、近隣へのチラシ配布等の効果もあり、定員30名の会場に地域の皆様を始め、26名のご参加をいただきました。川崎市の業務委託を受け、障がいを持った方たちも、そうでない人たちも共に手を携えて生きていける社会を目指したパラムーブメントの一環として障がいを持った当事者のインストラクターがこうした活動を通しての社会参加、社会的自立をはたしているということに参加した方々にお知らせしワークショップを始めました。参加者の皆様は、作品の完成度、達成感を十分に味わい、一様に驚きの声を挙げていました。終了後の一言感想を皆様に発表していただいたのですが、インストラクターの面白おかしい指導と、作品の味わい深さに感嘆しきりでした。</p>



物語っていることと思います。

また、東日本大震災で被災され川崎に避難された皆様と一緒に、三色パステルアートの楽しさ、達成感などに「避難している苦労を忘れてしまう」と言っていたことは、私たちの望外の喜びでした。たとえ一時にせよ、故郷から離れて暮らす辛さやストレスからの解放を感じて頂けたことは、私たちに大いに勇気付けてくれました。

以上のような観点からすれば、私たちは、三色パステルアートの普及活動ということについては一定程度の成果は上げられたものと自負しております。

しかしながら、私たちにとって「永遠の課題」と言っても過言ではない地域との交流= それに伴う障がいへの理解の推進と言うことになれば、手掛かりは掴めたものの、未だしというのが本音です。地域との連携を図るためのツールとして「三色パステルアート」は有効な武器であるものの、それをどこで発揮するのかという課題は十分にクリアすることができていませんでした。私たちの未熟さを反省しなければなりません。昨年「パラムーブメント」という機会を得られましたことは、ややもすれば「福祉」という観点からしか上記の課題などに取り組めていなかった私たちに「文化」という新しい視点を与えてくれたものと理解していますが、三色パステルを手段としてもう少し出来ることがあったのではないかと考えます。パラムーブメントが、文化的な側面からの「垣根のない社会」に近づいていくための運動であるならば、私たちにももう少しやりようがあったのではないかと、様々な視点から複合的に考えていくことができたのではないかと考えます。

そのため私たちは、昨年度達成できなかったものに再度挑戦したいと考え、本年度思いきった運動を展開したいと考えます。小学校入学以前の児童=具体的には保育園の児童を対象にした三色パステルアートのワークショップの開催です。

障がいを持った当事者による保育園児たちへの三色パステルアートの普及を進めることは、当然の事ながら園児の親達にも「障がい」が話題になることだろうと思います。少しでも、そこで「障がい」への理解が深まることもあるのではないのでしょうか。何より未だ偏見のない子どもたちへの三色パステルの普及こそは「パラムーブメント」の強力な援軍になる事と考えます。昨年度(厳密に言えば2019年3月)、伊藤インストラクターは、小学生(学年は様々)に三色パステルを指導する機会を得、大成功を収めました。これをさらに広げ、保育園年長者を対象にしようと考えたのです。勿論、親子教室なども大歓迎です。幸い、私どもは、社会福祉法人川崎保育会の運営する保育園のご

第四回目 10月30日(水) 13:30~16:00
ピアたちばな主催の「下野毛の秋祭り」(下野毛二丁目公園=下野毛2-8-3)で三色パステルのワークショップを開催させていただきました。ライブ方式(来た方から順次参加して貰う方式)で行ったのですが、予想に反して大勢のご参加をいただきました。親子連れ、障がいを持った方々、偶然訪れた方たち等々が、子どもたちを始めとして次々参加して下さり3席がフル回転。子どもたちから「座らなくても良いから描きたい!」と言われて急遽2席を追加。結局のところ**23名のご参加**を得ました。素晴らしい地域交流になったのではないかと考えております。参加後の感想等は場所柄、聞くことはできなかったのですが、後日主催者から、来年の参加を要請されたことで評価が高かったのではないのでしょうか。

第五回目 11月18日(月) 13:30~15:00。麻生区役所のデイサービスの要請で、区役所ホールにて、精神障がい者の方々を対象に**10名のご参加**をいただきまして開催いたしました。終了後、お茶を飲みながら感想を述べていただいたのですが、「障がいを持った当事者がこういう活動出来るなんて、自分たちの励みになります」という言葉をいただきましたことは、望外の喜びでした。

第六回目 12月12日(木) 13:30~15:00。地域活動支援センターさくらスタジオ(川崎市麻生区片平2-29-1 B1)様で、**7名の方々のご参加**を得てワークショップを開催いたしました。今後の交流を約束させていただきましたことは大なる喜びでした。



第七回目 2020年1月15日(水) 13:30~16:00。学校在学中の障がいのあるお子様の放課後やお休み等の居場所づくりのための事業所、「放課後デイサービスひまわり(神奈川県川崎市中原区井田中ノ町26-4)」様にお声がけして、様々な体験の一助として、また、その発達や成長のためのきっかけが生まれるようにとの願いで三色パステルのワークショップを開催させていただきました。障がいがあるお子様たちなので、集中力が持つかが心配だったのですが、伊藤インストラクターの見事な指導で、三交代**14人の参加**の中、一人の途中退席もなく、皆様大喜びのうちに終了いたしました。帰りには伊藤インストラクターにすがりついて「また来てね」とせがむお子様もいらっしゃいました。

第八回目 2020年2月14日(金) 13:30~16:00川崎市精神障害者地域生活推進連合会主催の「第三回地

<p>協力を得ることが出来ました。運営する3つの保育園での開催が期待されます。幼児期からの子どもの感性教育に有効な三色パステルアートは簡単に材料の準備が出来て、子供からお年寄り、障がいの有る無しに拘わらず、絵ゴコロが無くても誰でも描ける上に、描く過程の中で、心の変化が期待される事から「心の扉が開く三色の魔法」とも言われています。保育園児たちにこの三色からなる魔法を届けられればこれ以上の喜びはありません。</p> <p>今後、</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 川崎市内の保育園でのワークショップ(親子を対象としたワークショップ) ② 障がい者施設でのワークショップ ③ 高齢者を対象にしたワークショップ <p>等を通して、地域、世代、障がいの有る無しに拘わらない地域交流を図っていきたいと考えます。</p>	<p>域交流会」に昨年に引き続きお招きいただき三色パステルアートのワークショップを開催いたしました。これは、昨年の参加者の皆さんに大好評だったことから、今年も是非にとお声がけいただいたものです。今年度も8席用意された会場で二回転16名のご参加をいただきました。時間の関係で、三席目の開催が出来ずに、お待ちいただいた人たちに葉申し訳ない思いでした。</p> <p>第九回目 2020年2月29日(土)「話してほっとカフェ」の目玉企画として三色パステルアートのワークショップを開催。これは、公益財団法人神奈川県社会復帰支援会が様々な悩みを抱えた人々を対象に、気軽に相談＝話してみませんかと呼びかけたものです。その中で、伊藤インストラクターのように三色パステルアートを通した社会参加を果たして実際に活躍している姿を相談会の中で見ていただこうと考えたものです。</p>
--	---

【計画時の事業目的(取組課題)と実施効果】	【実際の効果と課題】
<ol style="list-style-type: none"> ① 三色パステルアートは、インストラクターがレシピに沿って教えますので、絵の苦手な方でも、まるで売り物のような作品ができます。それにより自分自身の可能性を感じ自分に自信がついていきます。幼児期からパステルアートに触れることで感性教育が深まります。 ② 赤・青・黄の三原色だけで無限の色が作れる不思議体験ができます。とっても簡単なので、絵を描くことのコンプレックスが無くなります。絵が描けるようになるだけでなく、集中力がついたり、日頃のストレスから解放されたりします。 ③ ワークショップの開催で地域住民との交流に取り組みやすい環境づくりが図れます。また、地域の方々からのボランティアを募ることにより、障がい者への理解を深めて頂くことができます。川崎市精神障害者地域生活推進連合会との連携により、障がいへの理解を深めていく地域啓発効果が得られます。 ④ パステルアートの普及活動は、「垣根のない社会」＝パラムーブメントの実効的効果を上げることが出来ます。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 保育園の児童を対象にしたワークショップの開催を目指しましたが、保育園行事に合わせる事が出来ずにそこでの開催は見送られてしまいました。代わりに、学校在学中の障がいのあるお子様の放課後やお休み等の居場所づくりのための事業所、「放課後デイサービスひまわり様」にお声がけしました。三色パステルのワークショップが、様々な体験の一助として、また、その発達や成長のきっかけとなったのではと自負しています。何より、伊藤インストラクターの見事な指導で、障がいを持った子どもたちが大いに達成感を味わった事が実感されました。障がいを持ったお子様達なので、具体的な感想はお聞きできなかったのですが、伊藤インストラクターにしがみつくお子様達の姿が雄弁に成功をものごとっていますし、次回の要請も受けたことで、お子様達の評価も高かったのではとっております。 ② 区役所ホールで、精神障がい者の方々を対象に三色パステルアートのワークショップを開催しました。終了後の感想で「何でもこういう絵が描けるのが自分でも不思議に感じるぐらい」というお言葉をいただきました。そして「障がいを持つ当事者がこういう活動が出来るなんて、自分たちの励みになります」という言葉を頂いたことは、望外の喜びでした。

- ③ ピアたちばな主催の「下野毛の秋祭り」(下野毛二丁目公園=下野毛2-8-3)で三色パステルのワークショップは、ライブ方式(来た方から順次参加して貰う方式)で行いました。予想に反しての参加者数で、親子連れ、障がいを持った方々、偶然訪れた方たち等々が次々参加して下さり3席がフル回転。急遽2席を追加。結局のところ23名のご参加を得ました。障がい者を中心としたお祭りの中で、素晴らしい地域交流になったのではないかと考えております。
- ④ 障がいを持った方たちも、そうでない人たちも共に手を携えて生きていける社会を目指したパラムーブメントの一環として、障がいを持った当事者のインストラクターの活躍が、多くのワークショップ参加者の皆様に受け入れられてきていることを、参加者の増加とワークショップ終了後の懇談でいただいた感想から感じることができました。完成度、達成感を十分に味わい、一様に驚きの声を挙げられたことが当事者のインストラクターへの評価そのものであると実感しました。
- ⑤ しかし、私たちの「永遠の課題」である地域との交流=それに伴う障がいへの理解の推進は未だ道途上です。地域との連携を図るためのツールとして「三色パステルアート」を十分に活用していくことをこれからも考えていかなければなりません。「福祉」という観点ばかりではなく、三色パステルアートの持つ芸術性をしっかりとアピールしていかなければならないのですが、十分に出来ていないことは反省材料です。Collarsかわさき展で、伊藤インストラクターの作品が評価されたことは大きな喜びとなりました。これを励みに、更なる飛躍を目指したいと思います。
- ⑥ 今回、九回目の「話してほっとカフェ」が、コロナウイルスの影響で延期せざるを得なかったことは残念でなりません。というのも、今回広報活動の一環で、朝日新聞、東京新聞、およびホームページなどでのアピール。町内会、各福祉事業所、社会福祉協議会、家族会などへの広報活動などを当会の総力を挙げて実施いたしました。相談会のご来所様に、障がいを持ったかたでも、これだけ立派に活躍できるという実際の姿を見ていただく予定でした。20件近くのお問い合わせもあり、盛況が予想されました。